

【生薬名】黄耆[Ⓢ] ASTRAGALI RADIX

【起源植物】キバナオウギ *Astragalus membranaceus*
ナイモウオウギ *A. mongholicus*



黄耆には4種類あって綿黄耆、紅耆(晋耆)、土黄耆(木耆)、和黄耆などと称され、みな起源植物が違っています。(1)綿黄耆は現在、黄耆の正品とされているもので、マメ科のキバナオウギ又はナイモウオウギの根とされています。(2)紅耆はマメ科の *Hedysarum polybotrys* Hand.-Mazz. の根、(3)土黄耆はムラサキウマゴヤシ、シナガワハギ、コゴメハギなどの根で、これらはすべて黄耆の代用品とされています。(4)和黄耆はわが国に野生するイワオウギの根で、かつてわが国で黄耆が品薄の時に代用されました。

【科名】マメ科 Leguminosae

【別名】*A. mongholicus*も黄耆の起源植物。

【薬用部分】根

【主成分】ステロールのβジトステロール、スチグマステロール、トリテルペンのβアミリン、フラボノイドのジハイドロオキシシ、ジメトオキソフラボン、コリン、ベタイン、糖質

【薬性】気味は甘微温、帰経は脾肺に属す

【効能】●補気升陽・固表止汗・裏水消腫・托毒排膿

●強壯、止汗、強心、利尿、血圧降下、止血に3~6gを煎服

●漢方では強壯的に使い、又皮膚の抵抗力をつけるとされます

桂枝加黄耆湯や黄耆建中湯は小児の体質改善薬として使います

●免疫賦活、抗腫瘍、肝庇護、降圧、抗炎症、抗アレルギーなどの作用も認められています

●補中益気湯や十全大補湯などは強壯剤としてよく用いる。

●帰耆建中湯は気血を補い肌を生かし托裏排毒の薬としてつかわれる

【出典】●主治肌表之水也。故能治黄汗。盗汗。皮水。又旁治身体腫。或不仁者。(薬徴)

●味甘微温。主癰疽久敗瘡排膿止痛大風癩疾五痔鼠瘻補虚小兒百病。(神農本草經上品)

●黄耆 性温、汗を収め、表を固め、瘡を托し、肌を生じ、気虚を少くす。(薬性歌)

【備考】●黄耆は中国人が人参以上に愛する補益薬です

●韓国ではハンギーと呼び市場で山積みにして売られていました。薬局の薬剤師に尋ねると夏場の暑気あたりや発汗過多に用い、1日60~150gを水600mlで煎服すると教えられました。

●皮膚疾患に良く効くので用いられる[Ⓢ]不適合の東黄耆(唐黄耆、紅耆、晋耆)は纖維束外辺に蔞酸Caを含む結晶細胞列を認める(和黄耆[Ⓢ]を規制する為の純度試験)、黄耆[Ⓢ]はこの結晶を認めない

【処方例】●補中益気湯、帰脾湯、十全大補湯、防己黄耆湯、七物降下湯、黄耆建中湯
桂枝加黄耆湯、黄耆桂枝五物湯